

徐勝 教授 略歴・主な業績

略 歴

略 歴

- 1945年 4月 3日 京都に朝鮮人移住者の子として生まれる（出生地：京都府北桑田郡周山町5本松，本籍：韓国忠清南道青陽郡木面太平里）
- 1961年 4月 京都府立西京高校入学
- 1964年 3月 京都市立堀川高校卒業
- 4月 東京教育大学入学（文学部社会科学科経済専攻）
- 1968年 3月 東京教育大学卒業
ソウル大学校語学研究所韓国語研修課程入学
- 1969年 3月 ソウル大学校大学院社会学科入学
- 1971年 4月 韓国陸軍保安司令部に連行，国家保安法等違反容疑で逮捕
10月 ソウル地方法院（第1審）で死刑宣告
- 1972年12月 ソウル高等法院（第2審）で無期懲役宣告
- 1973年 3月 大法院で上告棄却
8月 アムネスティ・インターナショナルで「良心の囚人」に選定
- 1988年12月 政治犯特赦により懲役20年に減刑
- 1990年 2月 仮釈放
6月 京都・洛陽教会と東京・芝青年会館での釈放報告集会で講演
10月 アメリカ各地での招請講演
- 1991年 1月 カリフォルニア大学バークレー校社会学科客員研究員〔1993年2月まで〕
10月 アムネスティ・インターナショナルの招請で，イギリス，フランス，ドイツ，オランダ，デンマーク，スウェーデンで講演
11月 WHO とチリ政府主催の国際シンポジウム「組織化されない暴力による被害とその救済」（サンチャゴ）に招請され報告
- 1992年 5月 アメリカ北カリフォルニアのNPO・STIK（Stop Torture in Korea）常任理事
- 1994年 4月 立命館大学法学部（保安法と人権）・文学部（反日論）非常勤講

- 師〔1998年3月まで〕
- 12月 多田謡子反権力人権賞受賞
- 1995年4月 大阪大学非常勤講師(反日論)〔1995年9月まで〕
- 1997年2月 第1回国際シンポジウム「東アジアの冷戦と国家テロリズム」
(台北)国際コーディネーター
- 1998年4月 立命館大学法学部教授(比較人権法)
- 8月 第2回国際シンポジウム「東アジアの冷戦と国家テロリズム」
(済州)国際コーディネーター
- 1999年11月 第3回国際シンポジウム「東アジアの冷戦と国家テロリズム」
(沖縄)国際コーディネーター
- 2000年2月 ソウル大学校修士(社会学)学位取得
- 4月 科研基盤(C)(研究課題「過去の深刻な国家の人権侵害犠牲者への
名誉回復・賠償の研究」)獲得〔2001年3月まで〕
- 5月 第4回国際シンポジウム「東アジアの冷戦と国家テロリズム」
(光州)国際コーディネーター
- 2001年11月 日本平和学会理事〔2008年12月まで〕
- 2002年2月 第5回国際シンポジウム「東アジアの冷戦と国家テロリズム」
(京都)国際コーディネーター
- 4月 立命館大学国際地域研究所専任研究員〔2003年3月まで〕
科研基盤(B)(研究課題「現代韓国民民主化と法・政治構造の法社会
学的研究」)代表者〔2005年3月まで〕
- 2003年3月 カナダ・UBCでの国際シンポジウム「第2次世界大戦下におけ
る日本の人道に対する罪」で基調講演
- 9月 カナダ・ヴィクトリア大学人文学研究センター Lansdowne Spe-
ciall Fellow〔12月まで〕
- 10月 第6回国際シンポジウム「東アジアの冷戦と国家テロリズム」
(麗水)国際コーディネーター
- 2004年1月 カナダ・ヴィクトリア大学アジア・太平洋戦略センター客員研究
員〔2004年7月まで〕
- 8月 韓国・延世大学社会発展研究所訪問研究員〔2004年9月まで〕
- 2005年4月 科研基盤(B)(研究課題「現代韓国の安全保障・治安法政の実証的
研究」)代表者〔2008年3月まで〕
- 6月 6・15南北共同宣言5周年民族大会(ピョンヤン)に参加

- 立命館大学コリア研究センター（RiCKS）センター長〔2010年3月まで〕
- 第1回 RiCKS 国際シンポジウム「東北アジア時代と現代韓国・日本」主催者代表
- 2006年 1月 韓国国際交流財団助成金獲得
- 2月 第2回 RiCKS 国際シンポジウム「東アジアに発信され拡散する韓国文化力の可能性」主催者代表
- 8月 「平和の灯（ひかり）を！ ヤスクニの闇へ」東アジア共同行動（東京）共同代表〔現在まで〕
- 10月 第1回 RiCKS 韓国映画フェスティバル「韓国映画の魅力 女優 ムンソリの世界」実行委員長
- 12月 第3回 RiCKS 国際シンポジウム「朝鮮半島の平和と東北アジアの安全保障 多元的構想」主催者代表
- 2007年 1月 韓国国際交流財団助成金獲得
- 4月 第4回 RiCKS 国際シンポジウム「世界経済の変化と転換期の韓国経済」主催者代表
- 6月 6・15 南北共同宣言7周年民族大会（ピョンヤン）に参加
- 第5回 RiCKS 日韓共同研究会「現代日本と韓国の情報化・情報通信技術（IT）の発展と法的問題」研究代表
- 10月 第2回 RiCKS 韓国映画フェスティバル「チェ・ミンシク 行動する役者」実行委員長
- 金大中前大統領を立命館大学コリア研究センターに招請
- 11月 靖国反対アメリカ共同行動共同代表
- 日本平和学会 2007年度秋季研究集会「東アジアにおける「民衆の平和」を求めて 日韓歴史経験の交差」（韓国・済州大）開催担当理事
- 2008年 1月 韓国国際交流財団助成金獲得
- 5月 第6回 RiCKS 国際シンポジウム「朝鮮半島の和解・協力10年 評価と展望」（京都）主催者代表
- 6月 第4期日韓共同研究会「韓国平和主義及び平和思想の歴史・哲学・宗教学的的研究」研究代表
- 8月 「2008 平和の灯（ひかり）を！ ヤスクニの闇へ」東アジア共同行動（東京）共同代表

- 10月 第3回 RiCKS 韓国映画フェスティバル「アン・ソング 韓国映画の時代」実行委員長
- 12月 第7回 RiCKS 国際シンポジウム「浮遊する在日コリアン 同化と差別のなかで」主催者代表
- 2009年1月 第4回 RiCKS 韓国映画フェスティバル「自立する女性 映画俳優キム・ヘスの魅力」実行委員長
- 4月 アジア太平洋のミサイル防衛に反対し軍拡競争の終わりを求める国際会議(ソウル)参加
済州4・3事件60周年記念国際シンポジウム「記憶を越え和解へ」で報告
- 6月 ドイツ, コリア協会招請でベルリン訪問・講演
- 2010年1月 東アジア歴史・人権・平和宣言委員会準備委員長
- 2月 ジョンス・ホプキンス大学で講義(テーマ「東アジアと私の研究」)
- 4月 立命館大学コリア研究センター運営委員
- 4-5月 全南大学校5・18研究所・日本平和学会共催, 光州民衆抗争30周年特別シンポジウム「抵抗と平和」開催担当
- 7月 第8回 RiCKS 国際シンポジウム「新国際協調主義時代における東アジアと朝鮮半島」企画
- 8月 「2010 平和の灯(ひかり)を! ヤスクニの闇へ」東アジア共同行動(東京)共同代表
- 11月 第5回 RiCKS 韓国映画フェスティバル「百の顔を持つ男 ソル・ギョング」実行委員長

主な業績

単 著

『民衆が真の勝利者 徐勝 出獄メッセージ』

徐君兄弟を救う会編(影書房)(1990年12月)

『The Frozen Clock and the Detained Conscience Long-Term Political Prisoner and Ideological Conversion System In South Korea』

(STIK)(1992年3月)

徐勝教授 略歴・主な業績

- 『獄中19年 韓国政治犯のたたかい』
(岩波新書)(1994年7月)
- 『第一歩をふみだすとき 日本とアジアの戦後50年を問う』
(日本評論社)(1995年8月)
- 『서승의 옥중 19년』
(역사비평사)(1999년2월)
- 『Unbroken Spirits Nineteen Years in South Korea's Gulag』
(Rowman & Littlefield Publishers, INC)(2001年)
- 『だれにも故郷はあるものだ 在日朝鮮人とわたし』
(社会評論社)(2008年11月)
- 『徐勝の東アジア平和紀行』
(かもがわ出版)(2011年2月)

共 著

- 『徐兄弟 獄中からの手紙 徐勝, 徐俊植の10年』
徐京植編訳(岩波新書)(1981年7月)
- 『我肝沖繩 ワチム(わが心の)オキナワ』
知花昌一・池宮城紀夫・安里英子・金城実・牧田清と共著
(解放出版社)(1996年12月)

編著・監修

- 『現代韓国の民主化と法・政治構造の変動』
大久保史郎と共編(日本評論社)(2003年4月)
- 『東北アジア時代への提言 戦争の危機から平和構築へ』
松野周治・夏剛と共編(平凡社)(2003年7月)
- 『東アジアの冷戦と国家テロリズム 米日中心の地域秩序の廃絶をめざして』
徐勝編(御茶の水書房)(2004年12月)
- 『東北アジア共同体への道 現状と課題』
松野周治・夏剛と共編著(文眞堂)(2006年3月)
- 『現代韓国の安全保障と治安法制』
徐勝編(法律文化社)(2006年4月)
- 『女優ムン・ソリ 韓国映画の魅力を語る』
立命館大学コリア研究センター編/徐勝監修(かもがわ出版)(2007年10月)

- 『「韓流」のうち外 韓国文化力と東アジアの融合反応 』
黄盛彬・庵途由香と共編(御茶の水書房)(2007年12月)
- 『現代韓国民主主義の新展開』
徐勝監修/金津日出美・庵途由香編(御茶の水書房)(2008年3月)
- 『北朝鮮が核を放棄する日 朝鮮半島の平和と東北アジアの安全保障に向けて 』
徐勝監修/康宗憲編(晃洋書房)(2008年6月)
- 『チェ・ミンシク 行動する役者』
徐勝監修/立命館大学コリア研究センター編(かもがわ出版)(2008年9月)
- 『韓米 FTA と韓国経済の危機 新自由主義経済下の日本への教訓 』
李康國と共編(晃洋書房)(2009年2月)
- 『アン・ソング 韓国映画とその時代』
立命館大学コリア研究センター編(かもがわ出版)(2009年10月)
- 『朝鮮半島の和解・協力10年 金大中・盧武鉉政権の対北朝鮮政策の評価』
中戸祐夫と共編(御茶の水書房)(2009年11月)

訳 書

- 『ナヌムの家のハルモニたち 元日本軍慰安婦の日々の生活』
慧眞著/金京子と共訳,解説(人文書院)(1998年3月)
- 『駐韓米軍犯罪白書』
徐勝監訳/広瀬貴子訳/駐韓米軍犯罪根絶のための運動本部編
(青木書店)(1999年1月)
- 『朝鮮半島の新ミレニアム 分断時代の神話を超えて』
李泳禧著/徐勝監訳・解説/南裕恵・広瀬貴子訳
(社会評論社)(2000年8月)
- 『愛はおそれない 韓国・獄中からのラブライター』
韓明淑・朴聖煥著/徐勝訳・解説(朝日新聞出版)(2010年3月)

論 文

- 「開発と人権 東北アジアの場合」
立命館国際地域研究 第7号 p. 17 (1995年3月)
- 「韓国の政治犯と思想転向制度」
龍谷法学 第28巻 第1号 p. 65 (1995年6月)

- 「대만 민중투쟁의 발자취를 따라서」
역사비평33호 p.204 (1996년5월)
- 「체험으로 본 동아시아의 인권」
사상 96년겨울호 사회과학원 (한국 서울) p.333 (1996년12월)
- 「朝鮮半島と日米安保共同宣言, 沖繩」
剣持一巳編 『安保「再定義」と沖繩 アジアの視点から』
(緑風出版) p. 135 (1997年3月)
- 「世界人權宣言50周年を迎えるアジア」
『世界人權宣言50周年 (立命館土曜講座シリーズ4)』
(立命館大学人文科学研究所) p. 59 (1999年2月)
- 「日本の国家主義, 韓国の民族主義小考 『日の丸』, 『君が代』 法制化について
の日韓大学生の態度調査を手がかりに」
部落 第51巻第13号 p. 26 (1999年11月)
- 「동아시아에 있어서 국가 테러리즘 희생자들의 명예회복·배상(reparation)
에 관한 연구 : 한국과 대만의 경우를 중심으로」
서울대학교 석사논문 (2000년2월)
- 『『韓日新時代』論考 金大中政権の対日政策』
立命館法学 第267号 p. 1 (2000年2月)
- 「双勝と慈悲 朝鮮半島における和解・協力・統一」
現代思想 第28巻13号 p. 70 (2000年11月)
- 「台湾 『戒嚴時期叛乱暨匪謀不當審判案件補償條例』の研究 その成立と改正を
めぐって」
立命館法学 第271・272号上巻 p. 444 (2001年2月)
- 「세계인권운동사에서 본 5·18 중대한 인권침해 회복운동의 측면에서」
『5·18 민중항쟁사』
(광주광역시 5·18 자료편찬위원회) p. 921 (2001年4月)
- 「東アジアの国家暴力 韓国, 台湾を中心に」
法社会学 第54号 p. 97 (2001年3月)
- 「한반도에 있어서의 화해의 정치학」
『민주주의와 인권』 제1권 (전남대학교 518 연구소) p. 61 (2001年4月)
- 『『日韓新時代』再論』
木野評論 33号 (精華大学) p. 213 (2002年3月)
- 「北東アジア情勢の展望 日朝交渉が与える影響」

軍縮問題資料 No. 267 p. 12 (2003年1月)

「現代韓国の法・政治構造の変動」(韓寅燮と共著)

大久保史郎・徐勝編『現代韓国の民主化と法・政治構造の変動』

(日本評論社) p. 1 (2003年4月)

「중국의 인권백서」

『한국형 인권지표의 모색』(경인문화사) p. 59 (2004년4월)

「済州四・三事件から見た大量虐殺事件の清算と和解 『済州四・三事件真相調査報告書』を手がかりとして」

内海愛子・山脇啓造編『グローバル時代の平和学第3巻
歴史の壁を超えて 和解と共生の平和学』

(法律文化社) p. 187 (2004年7月)

‘Japanese neo-nationalism and an idea of East Asian community’

INTER-ASIA CULTURAL STUDIES Vol. 6 No. 4 p. 609 (2005年12月)

「韓中高句麗認識論争の認識 東北アジア地域協力の条件を考える」

松野周次・徐勝・夏剛編『東北アジア共同体への道 現状と課題』

(文眞堂) p. 226 (2006年3月)

「우리에게 ‘야스쿠니신사’는 무엇인가」

『내일을 여는 역사』 24호 (2006. 여름)(서해문집) p. 115 (2006년6월)

「우리에게 야스쿠니신사는 무엇인가」

『질문하는 한국사』(서해문집) p. 436 (2008년4월)

「전후 일본의 과거청산과 야스쿠니」

嶺南法學 제 29 호 (영남대학교 법학연구소) p. 53 (2009년10월)

「제언 ‘동아시아 역사・인권・평화선언’을 위해—‘한국합병’ 100년에서 일 제 140년 동아시아 침략사를 생각한다」

『역사비평』 2010년 겨울호 (통권 93호)(역사비평사)
p. 13 (2010년11월)

翻訳論文

「朝鮮半島の核危機と解決方策」(ジェイムズ・パレ著)

世界 第585号 p. 169 (1993年8月)

「後街(裏道)」(陳映眞著/徐桂国と共訳)

新日本文学 第54巻1号 p. 12 (1999年1月)

「北朝鮮・核ミサイル(衛星)の政治軍事学 事実認識と討論のための問題提

- 起 」（李泳禧著）
立命館国際地域研究 第17号 p. 5（2001年1月）
「韓国の民主化における憲法裁判所と権力統制 1988年から1998年まで 」（鄭宗燮著）
立命館法学 第273号 p. 590（2001年2月）
「2000年度第二回（秋期）韓日共同シンポジウム参加記 戦後補償と韓国の行政法・女性法 」（鄭肯植著）
立命館大学法学部ニューズレター 第25号 p. 8（2001年6月）
「韓国の行政手続法と情報公開法の問題点と改善法案 協調的法治主義実現のための韓国的実験 」（金性洙著）
立命館法学 第276号 p. 213（2001年9月）
「韓国社会の民主化と国家保安法」（金鍾書著）
立命館法学 第277号 p. 338（2001年10月）
「韓国の軍事法と治安法：軍事と治安の錯綜と民軍関係の顛倒」（李桂洙著）
立命館法学 第285号 p. 385（2003年2月）
「現代韓国憲政史における国家緊急権」（宋石允著）
立命館法学 第287号 p. 421（2003年6月）
「韓国における表現の自由と国家統制」（朴宣映著 / 中村知子と共訳）
立命館法学 第288号 p. 208（2003年9月）
「韓米相互防衛条約の非対称性と水平化」（崔哲榮著 / 広瀬貴子と共訳）
立命館法学 第289号 p. 99（2003年10月）
「韓国の大統領弾劾制度 盧武鉉大統領弾劾審判事件を中心に 」（金鍾鐵著）
立命館法学 第297号 p. 181（2005年2月）
- 評論・エッセイ
「徐兄弟獄中からの手紙 獄中から 」（
世界 第390号 p. 283（1978年5月）
世界 第421号 p. 292（1980年12月）
「煉獄より 」（
世界 第466号 p. 328（1984年9月）
「獄中からの手紙 ハンスト前後」
世界 第536号 p. 276（1990年1月）
「이제야 모든 사람들이 해방되어야 합니다」

신동아 1990년4월호(1990년)

「母(オモニ)を心の支えに耐えぬいた獄中19年」

月刊 Asahi Vol. 2 No. 5 p. 60(1990年5月)

「組織化された暴力からの解放を求めて」

世界 第573号 p. 217(1992年10月)

「위기의 시대에 생각하는 사람」

말1992.10월호(1992년)

「第二回パークレー平和統一シンポジウムについて」

世界 第585号 p. 166(1993年8月)

「アジアとの共生とは何か～日本のアジア侵略100年と戦後50年～」

あくろす 第6号 p. 22(1995年秋)

「存在理由の無くなった韓国の悪法, 国家保安法は何を守るのか」

週間金曜日 第106号 p. 42(1996年1月)

「岡部さんと出会ったころ」

『岡部伊都子集』2 月報(岩波書店) p. 4(1996年5月)

「『日本とアジアの共生論』を批判する」

『アジアを鏡として戦争が見える』(社会評論社) p. 143(1996年8月)

「国際シンポジウム『東アジアの冷戦と国家テロリズム』への提言」

「台湾民衆闘争の足跡をたどって」

『白色テロル 日本と台湾, アジアの戦後史の闇 五〇年代に迫る』

(「東アジアの冷戦と国家テロリズム」日本事務局) p. 13, p. 19(1996年11月)

「アジアのにおい 沖縄自立・独立への力」

『我肝沖縄 ワチム(わが心の)オキナワ』

(解放出版社) p. 77(1996年12月)

「反差別だけでは不十分だ」

『沖縄へのメッセージ』(琉球新報社) p. 94(1997年2月)

「国籍の違いで命を落とすこともある現実」

立命館大学法学部ニューズレター 第13号 p. 3(1998年7月)

「第1回日韓共同研究 ソウル・シンポジウム外伝」

立命館大学法学部ニューズレター 第19号 p. 4(1999年12月)

「朝鮮半島平和の時代 日本の課題」

法と民主主義 第350号 p. 0(2000年7月)

「光州民衆抗争の相対化・歴史化のために」

- 『光州民衆抗争20周年・朝鮮戦争50周年記念第4回東アジア国際シンポジウム資料集』(国際シンポジウム「東アジアの冷戦と国家テロリズム」日本事務局) p. 5 (2000年4月)
- 「髪を振り乱し昂然として」
- 『掛谷宰平先生ご退職記念文集』
(掛谷宰平先生のご退職をお祝いする会) p. 23 (2001年3月)
- 「死してなお軍役を解かれぬ鬼神(クイシン) 皇軍の行進 靖国神社批判」
- 反天皇制市民1700 第12号 p. 25 (2001年12月)
- 「店開きをした韓国の国家人権委員会」
- IMADR-Mie NEWS No. 5 p. 4 (2002年1月)
- 「在日韓国・朝鮮人反戦・平和宣言 今すぐ戦争の停止を! 東アジアと朝鮮半島に和解と平和を!」
- 統一評論 第436号 p. 32 (2002年1月)
- 「ナムの家から歴史館へ」
- ナムの家歴史館後援会編『ナムの家歴史館ハンドブック』
(柏書房) p. 117 (2002年7月)
- 「ワールドカップ・サッカー考 赤い悪魔とウルトラ日本」
- 法と民主主義 第371号 p. 0 (2002年9月)
- 『『現代韓国の安全保障・治安法制』プロジェクトの開始』
- 立命館大学法学部ニューズレター 第30号 p. 8 (2002年9月)
- 『『率直』と『譲歩』を和解と平和のパネに』
- 世界 第707号 p. 60 (2002年11月)
- 「남치선풍을 넘어서- 재일동포사회에서 본 평양수녀회담-」
- 역사비평 (한국) 2002년 겨울호 p. 21 (2002년11월)
- 「비정상국가 일본을 똑 바로 대하자 한반도 위기를 빌미로 전쟁 향해 앞으로 갔!」
- 『월간 우리』(대우출판) p. 82 (2003년5월)
- 「재일 조선인 문제, 다시 생각해야 할 때다」
- 아웃사이더 13호 p. 76 (2003년 6월)
- 「日本の右傾化を防ぐために 在日朝鮮人問題を改めて考えるとき」
- 統一評論 第453号 p. 35 (2003年7月)
- 「平和的解決を求めて」
- 週刊金曜日 第11巻第35号 p. 8 (2003年9月)
- 「韓国映画『実尾島』 さらけ出された冷戦期の国家暴力」

- 軍縮問題資料 No. 284 p. 30 (2004年6月)
「延辺調査報告 延辺朝鮮族のアイデンティティと高句麗史をめぐる韓中葛藤を
中心に」
- 立命館国際地域研究 第23号 p. 21 (2005年3月)
「私の解放, 私たちの解放」
- 月刊イオ 2005年8月号 p. 22 (2005年8月)
「東アジアの平和を求める旅(第1回) 東アジア国家暴力の礎石 靖国神社」
- 季刊軍縮地球市民 No. 4 p. 138 (2006年4月)
「平和の灯を! ヤスクニの闇へ キャンドル行動 東アジア民衆の視点で靖国問
題を問い直す」
- 法と民主主義 第410号 p. 31 (2006年7月)
「東アジアの平和を求める旅(第2回) 人権とトラウマ」
- 季刊軍縮地球市民 No. 5 p. 140 (2006年7月)
「日本の好戦性の根を断とう 北朝鮮のミサイルより靖国が問題だ」
- 統一評論 第491号 p. 26 (2006年9月)
「東アジアの平和を求める旅(第3回) 靖国の闇を照らしだすキャンドルの灯」
- 季刊軍縮地球市民 No. 6 p. 154 (2006年10月)
「在日同胞とわたし 故郷(コヒャン)」
- 月刊イオ 2007年1月号 p. 3 (2007年1月)
「東アジアの平和を求める旅(第4回) 濟州 平和の島」
- 季刊軍縮地球市民 No. 7 p. 140 (2007年1月)
「在日同胞とわたし 朝鮮, 韓国, コリア」
- 月刊イオ 2007年2月号 p. 3 (2007年2月)
「在日同胞とわたし 在日」
- 月刊イオ 2007年3月号 p. 3 (2007年3月)
「在日同胞とわたし 多文化共生社会 花園か, 水槽か」
- 月刊イオ 2007年4月号 p. 3 (2007年4月)
「東アジアの平和を求める旅(第5回) 友達のいない孤独な国『日本』 東北ア
ジア平和のための提言」
- 季刊軍縮地球市民 No. 8 p. 128 (2007年4月)
「在日同胞とわたし 通名」
- 月刊イオ 2007年5月号 p. 3 (2007年5月)
「在日同胞とわたし ウリマル」

徐勝教授 略歴・主な業績

- 月刊イオ 2007年6月号 p.3 (2007年6月)
- 「在日同胞とわたし ウリマル」
- 月刊イオ 2007年7月号 p.7 (2007年7月)
- 「在日同胞とわたし ウリマル」
- 月刊イオ 2007年8月号 p.3 (2007年8月)
- 「在日同胞とわたし ウリハッキョ」
- 月刊イオ 2007年9月号 p.3 (2007年9月)
- 「在日同胞とわたし 私たちの願いは統一」
- 月刊イオ 2007年10月号 p.3 (2007年10月)
- ‘Jeju: Island of Peace’
- Peace Studies Bulletin No.26 p.6 (Peace Studies Association of Japan)
(2007年10月)
- 「在日同胞とわたし 土に帰る」
- 月刊イオ 2007年11月号 p.3 (2007年11月)
- 「在日同胞とわたし オモニ」
- 月刊イオ 2007年12月号 p.3 (2007年12月)
- 「東アジアの平和を求める旅(第6回)靖国問題の解決を求めて」
- 季刊軍縮地球市民 No.11 p.108 (2008年1月)
- 「朝鮮半島と日本 和解と友好のために」
- 診療研究 第434号 p.25 (2008年1月)
- 「韓国併合閣議決定から100年 植民地支配の過去を見つめる」
- DAYS JAPAN 第6巻第9号 p.30 (2009年8月)
- 「東アジア平和の旗手となれ」
- 『法と民主々義』No.455 p.10 (2011年1月)

新聞

- 「マンデラ氏の大統領就任によせて」
- 京都新聞 1994年5月25日
- 「今の日本と朝鮮半島 南北分断がかわり深い日本」
- 毎日近畿(毎日新聞)1994年9月3日
- 「アジアふれあい地球」
- 毎日新聞 1995年8月30日
- 「論壇 日本でも事実の究明が大切だ」

- 朝日新聞 1995年12月26日
「ポスト冷戦時代 東アジアの人権を考える 上 人権侵犯する国家保安法」
沖縄タイムス 1996年1月18日
- 「ポスト冷戦時代 東アジアの人権を考える 中 人間と人間を分断」
沖縄タイムス 1996年1月19日
- 「ポスト冷戦時代 東アジアの人権を考える 下 重い アジアとの信頼関係」
沖縄タイムス 1996年1月20日
- 「沖縄へのメッセージ 反差別だけでは不十分だ」
琉球新報 1996年8月16日
- 「8・15 その日がくれば(上) 今も続く南北分断の苦痛」
琉球新報 1997年8月14日
- 「8・15 その日がくれば(下) 日米覇権政策が抑圧生む」
琉球新報 1997年8月15日
- 「新聞時評 外交の道筋持たぬ日本」
毎日新聞 1998年9月28日
- 「新聞時評 金大統領の抱える矛盾」
毎日新聞 1998年10月26日
- 「新聞時評 金剛山観光『船出』への期待」
毎日新聞 1998年11月23日
- 「新聞時評 なぜ中国には謝らない？」
毎日新聞 1998年12月21日
- 「東アジアの平和と人権 国家暴力へ学術的メス」
沖縄タイムス 1999年11月26日
- 「論：東アジアの人権 冷戦期の国家暴力 真相解明と名誉回復を」
毎日新聞 2000年1月29日
- 「錦南路に燃えた民衆の松明 光州事件20周年に寄せて」
京都新聞 2000年5月31日
- 「進む対話 交流の時代へ 姿勢問われる日本」
京都新聞 2000年6月13日夕刊
- 「言 提案あり！南北首脳会談以後 日本も『ウィン・ウィン』で」
毎日新聞 2000年7月1日
- 「民主化への寄与に共感」
京都新聞 2000年10月14日

- 「『つくる会』の中学歴史教科書問題によせて 過去からの断絶こそが重要」
京都民報 2001年 5月27日
- 「私の視点 特集・米英、アフガン空爆 勇気と知恵で平和の道探れ」
朝日新聞 2001年10月10日
- 「どうする日本 米同時テロをめぐる 米報復に NO と言え」
京都新聞 2001年11月10日
- 「世界を蔽う戦争に抗して 『東アジア平和と人権』国際シンポジウム日本大会」
琉球新報 2002年 2月 5日
- 「冷戦・国家暴力と日本(上) 日本の反戦運動検証」
琉球新報 2002年 3月 8日
- 「私の視点 瀋陽事件『企画亡命』では解決できぬ」
朝日新聞 2002年 5月31日
- 「悲しみ乗り越え和解を」
京都新聞 2002年 9月18日
- 「オピニオン『言』日朝平壤宣言『率直』を平和のパネに」
毎日新聞 2002年 9月24日
- 「재일조선인 박해는 잊었나」
한겨레 2002年10月15日
- 「노무현대통령 방일에 바란다」
한겨레 2003年 6月 2日
- 「東アジアの和解と平和へ 上 「同じ傷負う韓国と沖縄」」
琉球新報 2005年 2月15日
- 「東アジアの和解と平和へ 下 「米の単独覇権抑止を」」
琉球新報 2005年 2月16日
- 「抵抗と創造 光州民主化運動25周年 上」「民主化・統一への道歩む」
沖縄タイムス 2005年 2月17日
- 「抵抗と創造 光州民主化運動25周年 下」「民に誇りと与えた洪画伯」
沖縄タイムス 2005年 2月18日
- 「우정의 해-일본에 바란다」
한겨레 2005年 3月29日
- 「各国共同、和解委構想を 日韓歴史認識の溝」
朝日新聞 2005年 5月17日
- 「종교 아닌 군사시설 한국인 합사는 부당」

동아일보 2006年6月13日

「京の人 今日の人『送還日記』反響に注目」

毎日新聞 2006年7月5日朝刊

「新春特集1 徐勝(ソ・スン)さんにきく アジアにおける日本,その課題」

京都保険医新聞 2008年1月7・14日

「ホンネ de シネマ 光州5・18」

朝日新聞 2008年5月9日夕刊

「韓国で直接民主主義の壮大な実験が始まった アゴラ民主主義 韓国キャンドル・デモの政治学」

図書新聞 2008年7月19日

「歴史の報復 日韓保守政権の相似とコントラスト 韓国ニューライトが全国教職員労組への攻撃と教科書改悪を策す」

図書新聞 2008年12月20日

「キャンドルデモ一年 韓国民主主義の危機か,再生か」

図書新聞 2009年5月23日

「金大中元大統領と私」

京都新聞 2009年8月27日

「金大統領の最後のプレゼント 朝鮮半島は対話に向かって進み始めた」

図書新聞 2009年9月5日

「植民地支配は犯罪である「米日中心」から「民衆中心」の「東アジア地域秩序」へ」

コモンズ No. 19 2010年1月1日

「『親日人名事典』発刊がもつ歴史的な位置」

図書新聞 2010年1月1日

「韓国併合100年を機に『文明』という名の『野蛮』を見直そう」

京都新聞 2010年2月5日

「失われぬ故郷への思い」

読売新聞 2010年2月20日

「東アジアの平和をどうつくるか 哨戒艦『天安』事件から学ぶ東アジアの信頼構築」

世界へ未来へ 9条連ニュース No. 186 p. 2 (2010年6月)

「野蛮の時代を超えて「東アジア歴史・人権・平和宣言」へ」

同朋新聞 2010年8月1日

徐勝教授 略歴・主な業績

- 『韓国併合』100年に、140年の東アジア侵略史を問う」
図書新聞 2010年 8月 7日
- 「同一化せず日本の未来像語れ」
京都新聞 2010年 8月20日
- 書評「知念ウシ著 ウシがゆく 植民地主義を探検し、私をさがす旅」
京都新聞 2010年12月 5日 朝刊
- 「韓国併合100年から見る 冷戦の受難者 沖縄」上
琉球新報 2011年 2月 3日
- 「韓国併合100年から見る 冷戦の受難者 沖縄」下
琉球新報 2011年 2月 5日
- 前書き・解説
- 「人牛馬犬同舟の理 ナナムの家、仏教人権運動、ヘジン」
慧眞著 / 徐勝・金京子訳 / 徐勝解説 『ナナムの家のハルモニたち
元日本軍慰安婦の日々の生活』(人文書院) p. 169 (1998年 3月)
- 「序に変えて 犯罪としての米軍基地」
徐勝監訳 / 駐韓米軍犯罪根絶のための運動本部編 『駐韓米軍犯罪白書』
(青木書店) p. 13 (1999年 5月)
- 「光州民衆抗争の相対化・歴史化のために」
『光州民衆抗争20周年・朝鮮戦争50周年記念第4回東アジア国際シンポジウム資料集』(国際シンポジウム「東アジアの冷戦と国家テロリズム」
日本事務局) p. 5 (2000年 4月)
- 「解き放たれた『純粹と無垢』」
柳春桃著 『詩集 忘れ得ぬ人々』(海風社) p. 152 (2000年 5月)
- 「特集：朝鮮半島と日本の安全保障 特集を組むにあたって」
立命館国際地域研究 第17号 p. 1 (2001年 1月)
- 編者はしがき「平和国家日本が東北アジア時代をひらく」
徐勝・松野周治・夏剛編 『東北アジア時代への提言
戦争の危機を平和構築へ』(平凡社) p. 7 (2003年 7月)
- 「あとがき」
大久保史郎・徐勝編 『現代韓国の民主化と法・政治構造の変動』
(日本評論社) p. 409 (2003年 3月)
- 序文「東アジアの冷戦と国家テロリズム 米日中心の地域秩序の廃絶をめざして」

- 徐勝編『東アジアの冷戦と国家テロリズム 米日中心の地域秩序の
廃絶をめざして』(御茶の水書房) p. 1 (2004年12月)
「光州の記憶から東アジアの新生へ 洪成潭版画展によせて」
『洪成潭版画展 光州民主化運動25周年追悼 抵抗と創造 東アジア世界
の和解と新生』佐喜眞美術館(2005年2月16日-3月14日開催)
「はしがき」
徐勝編『現代韓国の安全保障と治安法制』(法律文化社) p. (2006年3月)
「巻頭言 東アジアにおける『民衆の平和』」
日本平和学会ニューズレター 第17巻第3号 p. 2 (2007年4月)
「序文」
徐勝・黄盛彬・庵途由香編『「韓流」のうち外 韓国文化力と
東アジアの融合反応 』(御茶の水書房) p. (2007年12月)
まえがき「半世紀の宿題, 朝鮮半島の平和体制構築から東北アジア平和へ」
徐勝監修/康宗憲編『北朝鮮が核を放棄する日 朝鮮半島の平和と
東北アジアの安全保障に向けて 』(晃洋書房) p. (2008年6月)
あとがき「世界金融危機と韓米 FTA が示すもの」
徐勝・李康國編『韓米 FTA と韓国経済の危機 新自由主義経済下の
日本への教訓 』(晃洋書房) p. 235 (2009年2月)
「はしがき」
徐勝・中戸祐夫編『朝鮮半島の和解・協力10年 金大中・盧武鉉政権の
対北朝鮮政策の評価』(御茶の水書房) p. (2009年11月)

インタビュー
「徐勝氏が語る獄中の19年『拷問に耐えかねて軽油をかぶった』」
朝日ジャーナル 第32巻10号 p. 24 (1990年3月)
「自分に正直であることの強さ」
世界 第550号 p. 127 (1991年2月)
「再び過ちをくりかえさないために 徐勝氏に聞く」
法学セミナー 第40巻9号 p. 1 (1995年9月)
「アジアは警告する」
法と民主主義 第323号 p. 42 (1997年11月)
「新任先生インタビュー 徐勝先生」
ほうゆう 61 p. 24 (1998年6月)

- 「東アジアの平和に最高価値 獄中体験通し世界見つめる」
しんぶん赤旗2003年4月26日
- 「We Need Peace 徐勝氏インタビュー」
Medi-Wing 第26号 p. 7 (2003年6月)
- 「北東アジアにおける『日朝』関係」
情況 第3期第4巻第9号 p. 48 (2003年10月)
- 「核心インタビュー迫 民主化が後押し幅広い視点で論議を」
毎日新聞2006年2月20日
- 「統一への夢 南北分断の克服見据えて」
琉球新報2006年3月1日
- 「《この人に》徐勝さん」
ウォロ (Volo) 2010年12月号 p. 25 (2010年12月)
- 講演および学会報告 (主要なもの)
- 「19年の獄中生活 『私は光栄に思う』」
徐勝さんを歓迎する集い (1990年7月1日)
- ‘My Life in Prison: The South Korean Recantation System and Political Prisoners’
Harvard Law School, Human Rights Program Speaker Series (1990年9月10日)
- 「在日韓国人政治犯と人権」
『ようこそ函館へ, 徐勝さん!』 在日韓国人政治犯の現状と人権を考
える集い (1990年12月14日)
- 「国家保安法をめぐる状況」
国際法律家協会関西支部総会 (1994年3月26日)
- 「延辺における朝鮮族自治区見聞」
立命館大学 アメリカン大学共同プロジェクト研究会 (1994年6月20日)
- 「私たちは人間的な姿で出会い, ともに暮らせるのか。」
アムネスティ九州連続講演会
(福岡, 日田, 長崎, 熊本, 鹿児島, 1994年9月1日~5日)
- 「獄中の状況 / 政治犯の今日的状況」
徐勝さんの出版を祝う会 (1994年9月9日)
- 「平和と人権 国家保安法と朝鮮統一問題」
四国学院大学講演会 (1994年10月21日)
- 「韓国の政治犯と思想転向制度」

龍谷大学法学会秋期講演会(1994年10月26日)

「獄中19年 韓国政治犯のたたかい」

徐勝氏出版記念講演会・レセプション(日本弁護士会館)(1994年10月29日)

「開発と人権問題」

第5回立命館大学 アメリカン大学国際共同コンファレンス

(1994年11月12日)

「私の若かった頃～ある在日朝鮮人の生活史～」

桂高校1年生 HR 同和(人権)学習(1994年11月24日)

「朝をみることなく 真摯に平和と統一を願う心」

立命館大学第41回「不戦の集い」(1994年12月8日)

「私の獄中19年」

多田謠子反権力人権賞受賞記念講演(1994年12月17日)

「日本の戦後50年・アジアの民族解放50年・教育に期待すること」

1995年度東大阪市教育研究会全体会(1995年2月8日)

「獄中19年、それから…」

名古屋徐勝氏講演会(1995年2月12日)

「私たちの戦後50年」

アムネスティ・インターナショナル日本支部1995年総会記念講演会

(1995年2月25日)

「世界・日本の平和研究のあり方と課題」

平和軍縮研究会(1995年3月7日)

「自分はなぜ「国際人権」運動にかかわってきたのか」

人権についての考え方・思想としての人権 アジアと人権

(アムネスティ・インターナショナル日本支部学習会)(1995年5月20日)

「アジアの共生とは何か 日本のアジア侵略100年と戦後50年を考える」

戦後50周年記念講演会(1995年6月18日)

「獄中19年、いま想うこと」

拷問等禁止条約の批准を求める会結成の集い(1995年7月1日)

「第一歩をふみだすとき アジアの視点から」

終わらぬ戦後 不戦の誓いあらたに(1995年8月15日)

「獄中19年からみる日本の戦後50年」

第8回国際保健医療学習会(1995年9月22日)

「日本とアジアの戦後50年を問う」

徐勝教授 略歴・主な業績

- 「敗戦50年企画」学習会（1995年10月5日）
- 「『第一歩をふみだすとき』極限状況“獄中19年”を越えて語るアジアの平和と、人権！」
- アムネスティ・インターナショナル日本支部25周年記念講演会
（1995年10月28日）
- 「日本とアジアの平和と人権」
- 戦後50年企画徐勝氏講演会（1995年12月16日）
- 「人間の尊厳とは何か 獄中19年を闘って」
- 第10回理論と実践講座プログラム（1996年1月13日）
- 「日本のアジア認識 植民地・侵略戦争観をめぐって」
- 第30回『建国記念の日』不承認 2.11 愛知県民のつどい（1996年2月11日）
- 「今を語る」
- 岡部伊都子集出版を祝う集い（1996年4月5日）
- 「朝鮮半島と日米安保共同宣言・沖縄」
- 4.25 ヨンデネット大阪（日朝日韓連帯大阪連絡会議）
春期学習会（1996年4月25日）
- 「韓国の人権・いま 総選挙結果・38度線をめぐる状況」
- 徐勝氏が語る韓国のいま（1996年5月2日）
- 「沖縄を取り巻く地域からの発言」
- （日本復帰・日本再併合）25周年『沖縄独立の可能性をめぐる激論会』
（1996年5月14・15日）
- 「韓国・北朝鮮の現状と安保」
- 1996年秋期国際政治セミナー『いま、真に国際平和貢献はどうあるべきか』
（1996年10月4日）
- 「在日韓国・朝鮮人からみた日本人のアジア観、歴史観」
- 「自由主義史観」ってなに？ 市民集会 in 札幌（1997年6月7日）
- 「民衆の歴史を発掘する」
- 第1回日韓共同ワークショップ（北海道朱鞠内）（1997年8月1日）
- 「拷問禁止条約批准後の韓国の拷問」拷問禁止条約の批准を求めるネットワークシンポジウム
（1997年12月5日）
- 「アジアにおける平和と人権の創造」
- 日本国際法律家協会40周年記念シンポジウム

- 「アジアにおける平和と人権の創造」(1997年12月6日)
「世界人権宣言50周年を迎えるアジア・月間特集テーマ：世界人権宣言50周年」
立命館土曜講座(1998年10月24日)
- 「東アジアの国家テロリズム」
日本法社会学会学術大会 法と暴力 第2分科会：国家の暴力・抵抗の暴力
(2000年5月14日)
- 「純粋と無垢の解放」
「息づかい」上映会事前学習会(2000年9月30日)
- 「朝鮮半島の統一とアジアの平和」
関西共同行動講演会「朝鮮半島の統一とアジアの平和」(2000年11月9日)
- 「東アジア民衆は冷戦時代をどのように生きてきたのか? 冷戦を超えて21世紀
東アジア平和の時代へ」
第86回平和学習会(2001年2月14日)
- 「教科書問題を考える アジアで生きる若者のために」
第43回大谷スカウト名誉奉仕訓練特別講演(2001年3月28日)
- 「東アジアの国家テロリズム 韓国の国家保安法・民族分断の狭間に生きて」
アジア同時代 私の生きた歴史を語る(2001年6月9日)
- 「ナショナリズムと人権を考えるアジアからの発信 過去清算, 歴史教科書そして...」
神戸大学講演会(2001年6月26日)
- 『死してなお軍役を解かれぬ鬼神(クイシン) 皇軍の行進』 靖国神社批判」
「小泉首相の靖国参拝を許さない8・15集会」(2001年8月15日)
- 「東アジアと人権」
朝鮮大学歴史地理学部 集中講義(2001年9月17~19日)
- 「侵略戦争と植民地支配 『歴史教科書』を考える講演のつどい(特別発言)」
侵略戦争と植民地支配「歴史教科書」を考える講演のつどい
(2001年9月29日)
- 「歴史教科書問題を通してアジアと日本を考える...」
京都高校・障害児学校教育研究会51回(2001年10月28日)
- 「アジアの中の日本」
2001年度後期「立命館びわこ講座」(2001年11月10日)
- 「テロと戦争 アフガン『戦争』を検証する 朝鮮半島・東アジアから考える」
日本平和学会九州沖縄地区シンポジウム(2002年4月27日)

- 「今、私たちはどこへ向かおうとしているのか」パネラー
盧溝橋事件63周年の集い(2002年7月8日)
- 「東アジアにおける重大な人権侵害からの回復の闘い」
「平和と人権」講演会(2002年7月27日)
- 「東アジアの平和と安全保障をめぐる」
憲法記念秋の集い(2002年11月3日)
- 「朝鮮半島をめぐる情勢と問題点」
第1回研究会「日朝平壤宣言を考える」(2003年1月10日)
- 「韓国大統領選挙後の朝鮮半島情勢と日本」
第37回建国記念の日を考える鹿児島県民のつどい
「東アジアの和解・協力・平和をめざして」(2003年2月11日)
- 「盧武鉉政権の登場と日本の非正常」
国際シンポ「東アジアの冷戦と国家テロリズム」
日本事務局名古屋事務局報告会(2003年2月22日)
- 「日本外交の岐路 対朝鮮半島外交とイラク戦争の危機を巡って」
清交会定例午餐講演会(2003年3月11日)
- ‘Toward Reconciliation and Cooperation between East Asia and Japan: The North Korea-Japan summit and after’, A Canadian Conference on Preventing Crimes Against Humanity: Lessons from the Asia Pacific War (1931-1945)
at UBC(2003年3月21日)
- 「朝鮮半島戦争危機と日本の役割」
日本民主法律家協会緊急学習会
「イラク・朝鮮・有事法制...何が起きているのか。何をなすべきなのか」
(2003年5月29日)
- 「イラク戦争後の韓国と日本外交の転機 東アジアの安全保障・地域協力の視点から」
(社)日本建築協会 建築クラブ 第三百七十一回朝食会講演
(2003年6月10日)
- 「東北アジア新時代の構想 = 韓国新政権の繁栄政策を中心に」
日中経済文化懇話会第126回例会(2003年7月11日)
- 「東北アジア時代と日本の選択 戦争か?平和か?」
緊急集会 武力によらない平和を考える市民の集い(2003年7月14日)
- 「盧武鉉新政権の対北朝鮮政策」2003年度自由学校講座「世界を知り、日本を知る」14

- アジアは新しい時代に入ったのか(2003年7月24日)
‘The Human Rights of Korean School Students and ‘Abnormal Japan’
Human Rights Center of Northwestern University(2004年4月6日)
‘Toward Reconciliation and Cooperation between East Asia and Japan: The North
Korea-Japan summit and after’
at Asian Studies in the University of Chicago University
(2004年4月7日)
- 「現代東アジアの国家暴力と日本平和主義の回転」
韓国社会学会2004年度特別シンポジウム「暴力と平和の社会学」
(2004年5月21日)
- ‘Korea: The Next Iraq? Nurturing a Culture of Peace in EastAsia’,
Public Forum on “North Korea-Cultivating a Culture of Peace in East Asia”,
An event of the Asian Heritage Month(2004年5月24日)
‘Japanese Neo-Nationalism and an Idea of East Asian Community’,
Stop War at Canada, Vancouver)(2004年6月17日)
- 「米軍と朝鮮半島安全保障問題・日韓公権力の性格の変化」
第5回日韓共同研究会(2004年7月13~18日)
- 「東北アジアの地域経済協力と共生 延辺地域を中心に」
延辺から民族の共生を考える(延辺大学)(2004年9月1日)
- 「在日同胞のアイデンティティの危機 『在日』論と『共生』論の陥穽」
韓国・聖公会大学校民主社会政策研究院第21回政策フォーラム
(2004年9月8日)
- 「東北アジア地域協力の条件 知の帝国と刀の帝国とのはざままで」
北京シンポジウム「東北アジア地域協力への道 基礎条件と展望」
中国社会科学院日本研究所(2004年10月30日)
- 「朝鮮半島の統一とアジアの平和」
釜山大学統一フォーラム(2004年11月4日)
- 「東アジアの平和と改憲へと進む『平和国家』日本」
ソウル大学校 特別講義(2004年11月5日)
- 「9・11以後の朝鮮半島と日本」
04年アジア太平洋資料センター・自由学校「朝鮮半島と私たち」
(2004年11月12日)
- 「東北アジアの平和と日本の役割」

司法修習生集会（大阪）（2005年3月20日）

「『平和国家』日本が東北アジア時代をひらく」

アジア・太平洋地域における平和・人権・共存 COLAP4 関西実行委員会
（2005年4月4日）

「朝鮮半島の統一と東アジアの平和」

6.15 共同宣言 5周年記念講演会（2005年4月17日）

「東アジアの平和と人権 東アジアのなかで沖縄を考える」

第8回連続ティーチ・イン沖縄@明治大学
『東アジアの冷戦と国家テロリズム』出版記念&ティーチ・イン
（2005年4月30日）

「21世紀東北アジアの平和のために」

6.15 共同宣言 5周年記念講演会（2005年6月3日）

「アジアの中における日本」

かながわ歴史教育を考える市民の会06年度総会・記念講演会
（2005年6月4日）

「平和国家日本の危機と機会 孤立する日本は東アジアで共存できるのか？」

2005長崎平和研究講座 特別講座（2005年6月11日）

「東アジアの平和を創る！ 靖国問題を中心に」

ふんばれ！憲法 い・ま・こ・そ・憲法 連続憲法講座 2006
（2005年7月8日）

「朝鮮民族の統一と東アジアの平和」

6.15共同宣言5周年，8・15光復60周年記念講演会（2005年7月21日）

「朝鮮民族の統一と東アジアの平和」

6・15共同宣言発表5周年記念講演会（2005年7月23日）

「일본 군사대국화」

한국EBC TV 90분 토론（2005년8월16일）

「東アジアの平和と人権 日本の課題」

龍谷大学教職員組合創立40周年記念公開シンポジウム（2005年11月5日）

「アジアの中における日本」

かながわ歴史教育を考える市民の会06年度総会（2006年6月4日）

「東アジアの平和実現のために 靖国から朝鮮人・台湾人を解き放せ」

06春期日本平和学会「立ち上がる平和主義」部会

「アジアで作る平和：日本国憲法の再生」（2006年6月10日）

- 「東アジアの『平和と人権』」
第41期・京都人権文化講座(第5回目)(2006年6月15日)
- 「アジアからみた靖国神社」
奈良女子大学部属問題研究集会(2006年6月14日)
- 「東アジアの平和を創る! 靖国問題を中心に」
連続憲法講座2006(2006年7月8日)
- 「靖国神社とは何か」
2006 国際学術シンポ「世界の目で靖国を見る 文明と野蛮の間」
(韓国ソウル)(2006年7月20日)
- 「国際学術シンポジウム セッション1 東アジアの過去を心に刻み、共に未来を拓く」
2006 東アジアの平和な未来のための共同ワークショップ
(韓国済州島)(2006年8月18日)
日韓フォーラム淡路島会議パネラー(2006年8月28・29日)
- 「太陽政策と東アジアの未来」
関西大学法学研究所第37回シンポジウム(2006年12月16日)
- 「東アジアの中の日本」
「紀元節」復活に反対し、思想・信教の自由を守る県民集会
(2007年2月11日)
- 「北東アジアから見た日本の改憲問題」
日本国憲法誕生60周年記念シンポジウム(2007年3月30日)
- 「日本と東アジア」
京都自由大学講義(2007年5月11日)
- 「東アジアの『平和と人権』」
第41期・京都人権文化講座(第5回目)(2007年6月12日)
- 「朝鮮半島と日本～平和、友好、和解に必要なものは?」
未来を考えるシンポジウム「北東アジアの非核、安全保障と日本国憲法」
(2007年9月24日)
- 「日韓中の歴史対話と葛藤 靖国神社の問題を焦点に」
「歴史教科書」日仏独共催シンポジウム(2007年10月17日)
- 「金大中の包容(太陽)政策と東アジア平和」
立命館大学土曜講座第2832回(2007年10月27日)
- 「東アジアにおける「民衆の平和」を求めて」部会 『済州からみる東北アジアの

平和』」

- 07 日本平和学会2007年度秋季研究集会「日韓歴史経験の交差」
(2007年11月9～11日)
- 「取り残される日本 経済制裁を越える道」
在日朝鮮人の人権を考える PART (2007年12月2日)
- 「6.25 전쟁 시기의 재일조선인의 생활」
국민대학교 세미나 ‘아직도 살아 있는 현실-전쟁하에서의 재외동포’
(2007年12月14日)
- 「統括ディスカッション『東アジアの和解と平和のために』」
南京事件70周年国際シンポジウム「過去と向き合い東アジアの
和解と平和を」パネラー(明治大学)(2007年12月15・16日)
- 「6カ国協議と南北首脳会談」
憲法問題特別委員会第18回連続学習会(2007年12月20日)
- 「太陽政策興東亜和平」
第十六回中韓関係国際学術会議(台北)(2007年12月23日)
- 「東アジア平和と人権 日本に何が問われているのか?」
第13回崔昌華記念北九州人権集会講演(2008年2月10日)
日弁連シンポジウム「靖国問題を通して平和を考える」パネラー
(2008年3月7日)
- 「일본과 동북아 평화를 구상한다」
부산대학교 제6회 10.16 기념 강좌(2008年4月1日)
제주 4.3 60주년 기념국제학술회의 지정토론(2008年4月3-5日)
- 「『靖国問題』と東アジアの平和」
シンポジウム「9条・ヤスクニ・歴史『和解』」(2008年5月5日)
- 「在日同胞と私 統一時代」
第2期第4回 茨城アリラン文化講座(2008年6月8日)
- 「私が経験した三度の解放 民族統一を考える」
6.15 南北共同宣言発表8周年記念講演会(2008年6月21日)
- 「KBS 열린 토론」
8.15특별기획, 야스쿠니를한다 토론자(2008년8월15일)
- 「6者協議から見る今後の東北アジア情勢」
今こそ日朝国交正常化を! 10.4 共同宣言1周年記念講演会
(2008年10月3日)

- 「재일동포 문제의 인식」
상지대학교 연수팀 강의 (2009년 1월 6일)
- 「靖国と日本の東アジア支配」
第32回 紀元節復活反対2・11道民集会 (2009년 2월 11일)
- 「東アジアの平和と日本」
兵庫県弁護士9条の会 2009年度総会 (2009년 4월 11일)
- 「東アジアの平和と日本 過去を清算し和解・協力と平和を」
国民保護法制を考える会 (2009년 5월 30일)
- 「야스쿠니 문제를 생각한다」
고려대학교 일본연구소 제 14 회 풀러키암 (2009년 6월 19일)
- 「朝鮮半島情勢と憲法9条」
ネットワーク九条の会 沖縄 徐勝さん講演会 (2009년 6월 29일)
- 「전후 일본의 과거 청산과 야스쿠니 ‘제사 받지 않을 자유’와 ‘제사하는’ 자유를 둘러싸고」
2009 영남대법학연구소 국제심포지엄 ‘인권과 의사의 자유’
(2009년 9월 21일)
- 「東北アジアに平和の実現を！～北朝鮮，韓国，中国の人びとと向き合うために～」
京都 YMCA 平和のつどい 2009 (2009년 9월 24일)
- 「新国際協力時代における東北アジア 『東アジア不戦の平和共同体に向けて』」
韓国東国대학교北韓研究所と立命館大学コリア研究センター
共同国際学術会議 (2009년 11월 6일) 韓国ソウル
- 「在日コリアンが語る 『日韓100年』」
2009년 「12.8」 研究集会 「市民文化」から問う東アジア
(2009년 12월 8일)
- 「어머니와 나 : 우리시대의 수난과 영광」
광주 오월어머니회 (2009년 12월 19일)
- 「私，私たちの故郷の復権のために」大阪女学院大学大学開放プログラム学生・市民対話シリーズ
2009年度(第五回)「和解への対話 東アジアに聴く 視る 識る」
(2010년 1월 10일)
- 「韓国併合100年と日本の課題」
フォーラム平和・人権・環境全国活動者会議第2分科会「平和・人権問題」

(2010年3月2日)

「아스쿠니와 일본신도(神道)」

한국해양대학교 해양문화연구소 특별강의(2010年3月16日)

「朝鮮併合100年, 安保50年 今, 『日本』を問う」

「変革のアソシエ」第2回大会(2010年4月10日)

「光州30年から語る東アジア平和共同体」

光州民衆抗争30周年記念特別講演(早稲田大学)(2010年4月24日)

「光州30年から見た東アジアの平和人権」

全南大学校5・18研究所・日本平和学会共催, 光州民衆抗争30周年特別シン
ポジウム「抵抗と平和」, 特別記念講演(2010年4月29日)

「韓国併合100年を迎えた日本と韓国 東アジアにおける脱植民地の課題」

成蹊学園創立100周年・成蹊大学アジア太平洋研究センター設立30周年記念
連続講演会「人間の安全保障と北東アジア サステイナブルな地域社会を
めざして」(2010年10月16日)

「재일조선인 차별을 통해서 본 차별의 근원으로서의 식민지 지배-「동아시아의
역사・인권・평화선언」의 의의」

전남대국제심포지엄(2010년11월11일)

「朝鮮半島の平和と安全の現況と展望 哨戒艦『天安』事件から延坪島事件へ」

秋田平和センター(2010年12月4日)

「朝鮮半島の危機を超える 天安艦事件から延坪島事件へ」

東アジア地域研究会2010年度研究大会(2010年12月5日)

「東アジアの真の平和と人権確立への道」

第324回国際人権規約連続学習会(2011年1月25日)

「韓国併合100年から見た沖縄」

琉球から韓国併合100年を問うシンポジウム(2011年2月6日)

講演録

『私たちは人間的な姿で出会い, とともに暮らせるのか』童話館ブックレット1

(童話館出版)(1995年8月)

「座談会 アジアに突き刺さった日本」(岡部伊都子と)

週刊金曜日 第92号 p. 28(1995年9月)

「冷戦最前線の国に生きて 台湾と韓国の戦後経験(上)・(下)」(陳映真と)

世界 第614号 p. 257(1995年10月)

世界 第615号 p. 293 (1995年11月)

「第一歩をふみだすとき アジアの視点から」

わだつみ会編『PEACE! PEACE! PEACE! 私たちに戦争責任はないのか』

(情況出版) p. 184 (1995年12月)

「過去を検証し新しい歴史を作ろう」

在日韓国青年連合・在日韓国学生同盟編『過去と冷戦を超えて いま日韓

条約を問う』(在日韓国青年連合・在日韓国学生同盟) p. 31 (1996年12月)

『沖縄から考える「ポスト冷戦」時代の東アジアの人権』(徐勝講演録)

沖縄人権協会(1996年4月)

『日本とアジアの平和と人権 人間たらしめるために』

アムネスティ松江 第147グループ(1996年8月)

「沖縄を取り巻く地域からの発言」

『激論・沖縄「独立」の可能性』(紫翠会出版) p. 68 (1997年10月)

「映画『風の丘をこえて』と恨」(土方鐵・吉田永宏と)

新日本文学 第52巻第9号 p. 30 (1997年11月)

「民衆主体の冷戦終結を目指して」

『東アジアの冷戦と国家テロリズム 台湾シンポジウム報告集』

(国際シンポジウム「東アジアの冷戦と国家テロリズム」日本事務局)

p. 46 (1997年11月)

「統一セミナー・質疑応答 統一の大河はとうとうと流れている」(姜萬吉・崔錫

龍・康民華と)

統一評論 第433巻 p. 37 (2001年9月)

「朝鮮半島・東アジアから考える」

長崎平和研究 第14号 p. 87 (2002年10月)

「座談会 北東アジアの立憲主義と平和主義 転換への視点」(季衛東・豊下楯彦

と)

法律時報 75巻7号 p. 4 (2003年6月)

「東アジアの和解と平和～21世紀の日本の課題(演題:東北アジアの平和と日本の役割)」

58期司法修習生春の修習祭報告集「ハルシュウ58レポート」p. 249

(2005年9月)

「講演 朝鮮半島戦争危機と日本の役割」

法と民主主義 第381号 p. 30 (2003年9月)

- 「平和国家日本の危機と機会 孤立する日本は東アジアで生存できるのか？」
長崎平和研究 第20号 p. 7 (2005年10月)
- 「東アジアの平和を創る！」
『い・ま・こ・そ・憲法 連続憲法講座 2006 講演録』
(愛知憲法会議) p. 30 (2006年)
- 「討論 冷戦後の東アジアをどう見るか」
別冊世界 第764号 p. 120 (2007年4月)
- 「朝鮮半島と日本～平和、友好、和解に必要なものは？」
『核戦争に反対する医師の会 2007年度活動報告集』 p. 53 (2007年)
- 「東京シンポ 靖国と南京 140年の帝国支配を超えて 東アジアの真実・和解委員会を」
法と民主主義 第426号 p. 36 (2008年3月)
- 「私の学校」
『和解への対話 東アジアに聴く・視る・識る (第四回)』
(大阪女学院大学大学解放プログラム) p. 4 (2009年3月)
- 「私、私たちの故郷の復権のために」『和解への対話 東アジアに聴く・視る・識る (第五回) 故郷』
(大阪女学院大学大学解放プログラム) p. 2 (2010年1月)
- 「韓国併合100年 東アジア歴史・人権・平和宣言」
変革のアソシエ No. 3 p. 6 (2010年7月)